サポート情報記事

Policy Acknowledgementのセットアップウィザードを完了する方法

2026 © Vitextra SIA. 無断転載を禁じます。

免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

目次

ストレージサイトを作成または選択する 4

管理者とその他のロールを割り当てる 4

通知と記録を設定する 5

サイトを意識的に選ぶ 5

ロールと通知の判断を検証する 6

中断した設定から安全に再開する 6

完了して検証する 7

Policy Adminの初回起動ウィザードは、ポリシーのストレージを準備し、初期設定を保存します。先にパッケージを展開し、セットアップに必要な権限を持つアカウントを使用してください。KB10497. Policy Acknowledgement：要件と権限を参照してください。

ストレージサイトを作成または選択する

1 SharePointページにPolicy Adminを追加し、ウィザードを開きます。
2 **新しいサイトを作成する**または**このサイトまたは別の既存のサイトを使用する**を選択します。
3 **サイトの URL**を入力します。既定の場所は**/sites/VitextraPolicies**です。新しいサイトでは**サイトタイトル**も入力します。
4 **ストレージを作成する**を選択し、サイトとリストの準備が完了するまで待ちます。

ウィザードは選択したサイトにソリューションのリストとライブラリを作成します。この準備を繰り返すと不足している構造が追加されます。既存のポリシーデータを削除する操作ではありません。



ポリシーストレージサイトの選択

管理者とその他のロールを割り当てる

1 製品を管理するグループを選択し、次の手順に進みます。管理者ロールは空にできません。

2 必要に応じて**コンプライアンス管理者**、**ポリシー作成者**、**監査役**のグループを割り当てます。
3 **従業員**の対象者を確認します。アクセスを特定のパイロットや業務対象者に限定する場合は、明示的なグループを使用します。
4 上司が直属の部下だけでなく間接的な部下も表示するかどうかに応じて、**上司は直属および間接的に配下に属するすべての従業員を確認できる**を設定します。
5 続行し、権限が適用されるまで待ちます。

警告

意図した管理者が選択したグループを使用できることを確認してください。管理者ロールの設定後、サイト所有者による代替アクセスは終了します。製品の権限を適用するとハブリストの継承が変更されるため、共有サイトを使用する場合は既存の権限を確認してください。KB10500. Policy Acknowledgementのロールと権限を設定する方法を参照してください。

通知と記録を設定する

メールとTeamsのオプション、通知を控える時間帯、送信者を確認します。サービスが提供されている場合は、**リマインダーサービスURL**を入力し、**管理者の同意ページを開く**、次に**同意の確認**を使用します。**閲覧確認の記録方法**で記録モードを選択します。接続されたサービスがない場合、自動リマインダーとエスカレーションは実行されません。

ウィザードがロールの権限を適用した後に記録モードを変更した場合は、セットアップ後にロールタブから権限を再適用します。KB10509. Policy Acknowledgementのデータ保存：DirectモードとServiceモードを参照してください。

サイトを意識的に選ぶ

ポリシーアプリを既存の従業員ポータルに置く場合、既存サイトは便利です。ただし、製品のリストには独自のロールベースの権限が設定されます。使用前にサイト所有者、既存グループ、管理責任を確認します。ナビゲーションの場所が共通でも、ポータル全体のすべてのメンバーにポリシー管理や証跡へのアクセスが必要なわけではありません。

専用サイトでは、ハブURLを記録し、製品のリストとページを管理する場所が明確になります。それでもソースアクセスは意識的に管理する必要があります。ポリシーは、そのサイトのライブラリ外のコンテンツを参照する場合があります。文書をどこで保守し、公開後のリンクと権限を誰が利用可能な状態に保つかを決めます。

後から作成するページでも同じサイトURLを一貫して使います。ハブフィールドに文書URLやリーダーページURLを入れないでください。ハブはデータの場所であり、リーダーページはそこに接続するインターフェイスです。この二つのアドレスを区別すると、ページは正常に開くのに想定外のハブからレコードを読み込むという、よくある状況を防げます。

ロールと通知の判断を検証する

ロールのステップから先に進む前に、予定する管理者が選んだグループに実際に属し、そのメンバーシップを解決できることを確認します。設定後に構成を確認できるよう、選択グループを記録します。設定担当者が引き続きアクセスできるだけで、今後のすべての管理者に同じ権利があると考えないでください。

マネージャーの配下全体に関するオプションは設定に保存されますが、現在のTeam Complianceはそのオプションを強制せず、両方の範囲を選択肢として提供します。間接の部下の表示を制限するためにこの設定に依存する前に、実際のアクセスを別途検証し、KB10530. Team Compliance：チームの監視とフォローアップを確認してください。

通知ステップは配信検証ではなく構成として扱います。外部サービスが利用できない場合は、検証できる設定部分を完了し、未完了のサービス依存チェックを記録します。通常の確認書き込みは、選択したモードと適用された権限に一致させます。モード変更後の権限再適用は設定プロセスの一部であり、従業員テストの成功に代わるものではありません。

中断した設定から安全に再開する

ウィザードが中断しても、何も作成されなかったとは限りません。別のページからやり直したり、別のサイトを作成したりする前に、選択したサイト、既存の製品リスト、保存済み構成を確認します。ストレージ準備は不足するコンポーネントを追加できますが、既存レコードを削除する理由にすべきではありません。

サイトアクセス、構造作成、ロール検索、権限適用、サービス検証のどの段階が失敗したかを特定します。適切なアカウントでその段階を再確認します。復旧後は、保存された構成と代表的なユーザー操作の両方を検証します。設定完了のマーカーだけでは、ソース文書、すべてのページリンク、自動通知が機能することは示せません。

完了して検証する

最後の手順では、**ライブラリからインポートする**で最初の下書きを作成するか、インポートせずに続行します。**セットアップを完了する**を選択します。ウィザードは従業員向けと管理用のページをすべて作成するわけではありません。KB10499. Policy Acknowledgementのページを作成しWebパーツを接続する方法の説明に従って追加し、接続してください。

インストール状態を確認し、管理者とパイロットの従業員でアクセスをテストします。ドキュメントをインポートしても公開や割り当ては行われません。